

第189回 すみだ文化講座

初期写真に見るすみだとその周辺

19世紀中葉、新たに誕生した視覚「写真」は、急速に欧州各国に広まりました。日本と日本人を写した現存最古の写真は、ペリー率いる米国海軍東インド艦隊の従軍カメラマンによって撮影されました。

以来100数十年、写真は、それまでは存在しなかった貴重な視覚的記録資料として、あるいは芸術作品として、社会に多大な影響を与え続けています。現在は失われた往年のすみだの景観も、その時代に撮影された写真から、うかがうことができます。

今回は、永年に渡って初期写真の研究に取り組み、多くの企画展も監修されてきた東京都写真美術館学芸員・三井圭司先生に、近代黎明期のすみだとその周辺を撮影した写真および写真家について、解説していただきます。



東京・隅田川の雪景色

「アルフレッド・ガロパン写真コレクション・アルバム」より

(東京都写真美術館 所蔵)

撮影者：内田九一 撮影年：明治2〜8年頃

素材・技法：鶏卵紙

- 日時 3月31日(日) 午後2時～4時
- 会場 ひきふね図書館 5階会議室
- 定員 50名(事前申込制、先着順) 入場無料
- 申込 3月1日(金)より、ひきふね図書館にて受付開始
☎03-5655-2350 FAX 03-5655-2351

※手話通訳を希望される場合は3月8日(金)までにお申込みください

ひきふね図書館4階・情報コーナーにて、本講座に関連した特集展示を、同時に開催します。

主催 墨田区立ひきふね図書館(京島1-36-5) ☎03-5655-2350